

# 受験生の挫折

10月も半ば。春の時点では、まだ遠い先のことのように思っていた入試が、すぐそこまで来ている。そして、時間は加速度的に過ぎていく。それとともに、焦りや不安はどんどん大きくなっていく……。きみは、大きく嘆息する。知らぬ間に涙が頬を伝う。家族に何故か八つ当たりしてしまつ。勉強が進まないと言われ友人は、実はこっそり猛勉強していそう。テレビ好きの私が、何を見ても面白くない。推薦で決まっていた友人を祝福しながら実はねたんでいたり……。「がんばれ」と言われても、何か白々しい。もつとでもいいやと思つたり……。そのくせいきなり張り切つて猛勉強してみ……。でも2日で終わり。勉強して何になるのかな……。高校や大学だけが人生じゃないし……。

今のきみは、そしてこれからのきみは、こんな状態のいくつかに該当し、該当することになるはずだ。そういう意味では、受験はまさに人の、若者の心を苦しめる。しかし、できることなら頑張つたほうがよい。少なくとも、進みたい高校や大学があつて、そこに合格したときの自分を想像したとき胸が高鳴るなら、頑張つたほうがよい。進学以外の選択肢を思い浮かべて何も思いつかないなら、やはり頑張つたほうがよい。今の苦しさは限られた期間だけ。やるだ

けのことをやらなかつた後悔は、かなり長く人によっては一生続くものなのだ。自己分析をきちんとして、もつと頑張りしてみないか。

ところで、周りを見渡せば、うらやましい状況に見える人がいる。強い目標や目的があつてひたすら打ち込める人。それほど強い思いはないのだが、今まで積み重ねてきた「学力」が抜群で、余裕の人。そんな人にならなかつたのは見えないのに、要領が良くてスイスイ伸びている人……。でも、真実は分らない。きみのように表面に出さないだけで、実は勉強のことで非常に苦しんでいるのかもしれない。たまたま勉強はうまくいっているが、実は別の面で心に闇を抱えているかもしれない。人に言えない重荷を背負っているかもしれない。そう、真実は分らない。



そして、きみだ。きみにはきみの真実がある。きみにしか分らない夢があり、希望があり、欲望があり、理由があり、事情がある。きみなりの長所があり、短所があり、きみなりの強さと弱さがある。そういうものを全部ひっくるめてきみという一人の人間がいる。きみにとつて一番大切な人間だ。その一番大切な人間は、成功させなければならぬ。そして、幸福感を味わせてやらねばならない。そのために私達はここにいるのだが、しかし、私達の力は微々たるものだ。きみにとつて一番大切なきみという人間を成功へと導く鍵は、最初から最後まできみが握っているのだ。だから、きみが頑張るしか

ない。私達は叫ぶ。私達は祈る。しかし、動くのはきみだ。きみしかいないのだ。

そこで考えてもらいたい。判断してもらいたい。とりあえずは受験生としての自分。自分の心の深いところで何を望んでいて、どうなれば満足できるのか。頑張ろうという気持ちはあるのに、進めないのは何故か。いつも、目先の誘惑に負けて流される(テレビをタラタラと見たり、長時間ポーツとしたりする)のは何故か。そして、そういう時の一瞬の気持ちに従つて自分の願望をつぶしてもいいの。逃げないでほしい。いつもここから逃げていたのだから。それで失敗を繰り返していたのだから。もつと、逃げてはいけない。逃げるな！

さて、ここで、一つ実験をしよう。2つの作業を同時にやってみよう。一つは、きみが使っている単語帳の20ページ目を開いて暗記。もう一つは、受験で心配なことを紙に書き出す作業。さあ、やれ……。できるはずがない。絶対無理。人の頭は、心は、一度に2つのことはできないようになっているのだ。

何を言いたいかと言えば、きみが不安な気持ちや自分を嫌つ気持ちにとらわれている時は、勉強は全く進まないということだ。勉強をするためには、不安な気持ちはそのままにして、机に向かい、具体的に問題を解くしかないのだ。「不安で勉強が手につかない」という人がいるが、それは嘘で、「自分で不安と向き合つたことを選択

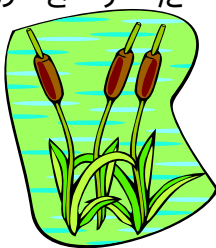


したので、勉強はやれない。」といつのが正しい。さあ、きみはどうする。この世で一番大切な自分という人間にきみは不安と向き合つ毎日を送らせるのか、それとも、少し勇気を出して机に向かわせるのか？よくよく考えることだ。まだ、時間はある。そしてきみには、まだ使っていない能力がたくさん眠っている。

(小林(健))

## 秋の夜に思ふ

夏の猛暑が嘘のように、過ぎしやす季節となつて久しい。うっかり布団をかけないで寝ていると、風邪を引きそうになる。夜も更けて、あたりが静まり返つたころ、家の外に耳を澄ませば、鈴虫がその美しい音色を奏でていて聞けるの心を癒してくれる。地中で長い間過ごし晩年の地上で謳歌したい蝉には申し訳ないが、その役は演じられまい。秋に多く発生する台風も今年はそのほどでもないようだ。台風を中心気圧を見て今後の動向を心配することも少ない。昔は気圧の単位といえばミリバルだったが、今はヘクトパスカルに取って代わられてしまつた。最近ようやく聞き慣れてきた。その気圧の単位にもなつているパスカルだが、「人間は考えるアシである」という名言を残したことで知られている。アシを脚だと思ひ、そのときはじめて草という植物の



存在を知ったのも私だけではないだろう。また、かの有名な名言「クレオパトラの鼻がもう少し低かったなら・・・」もまたパスカルの残したものだ。最近になってはじめて知った。その彼の残した名言で私の心に残るものがある。彼はこういつた。「知識は悲しみである。多くを知るものは恐ろしき真実を深く嘆き悲しまなければならぬ。」と。

「知識は悲しみである。」とは、なんとも衝撃的なフレーズではないだろうか。日本語にも同じような意味を表す「知らぬが仏」という言葉があるが、パスカルのこの名言のほうに軍配をあげたい。もっともこのように和訳されたからこそ、これほどまでに衝撃的だったのかも知れない。翻訳者に「あっぱれ」をあげるべきか。それに比べ、エジソンの名言「天才は1パーセントのひらめきと99パーセントの努力である。」だが、「ひらめき」と「努力」と和訳された部分が原文ではうまく韻を踏んでいるのだが、和訳したときにはその味わいが消えてしまっていて残念だ。



それはさておきこの彼の名言だが、なぜ彼にこんな名言を言わしめたのか知る由もないが、確かに知識は時にそれを知るものに悲しみを与える。例えば、最近クローズアップされている話題だが、日本では年間約4万人の子どもが何らかの虐待を受けている。また、

年間約3万人の人が人知れず孤独な最期を遂

げている。どちらも悲しい事実である。さらに、

これらはあくまでも統計上の数字であって、実際にはその数字の裏にそれ以上の人々が隠れていることを考えると悲しみは一層深くなる。しかし、一方ではそういった事実を憂い改善しようと各方面で動きがある。これはつれい事実である。その動きもパスカルの時代と違いインターネットが広がったこの時代では多くの人に急速に知れ渡り、知識は悲しみを与えるばかりではなく、それを何とかしたいという動きへとつながっていく。もちろんパスカルが悲しみに明け暮れ悲観的に生きたとは思えない。彼はこんな名言も残している。「知恵は知識に勝る」と。おそらく彼は悲しい事実には嘆き悲しむばかりではなく、それを打開するためにどうしたらよいか知恵を絞ったのではないだろうか。勝手な想像だが、そうあって欲しいと思う。事実を悲観的に捉えようと楽観的に捉えようとどちらも間違いではないであろう。もし間違いがあるとするれば、その後どう行動するかによるのではないだろうか。悲しみに明け暮れ何もしないのか、奮起して立ち上がるのか。それを言い表したような面白い投稿記事を世界で多くの読者を持つリーダーズダイジェスト(カナダ版)で見つけたので紹介したい。「楽観主義者も悲観主義者もどちらも世の中に貢献している。楽観主義者は飛行機を発明し、悲観主義者はパラシュートを発明した。」けだし名言ではないだろうか。

(小池)

## 時代を変えていく、変わっていくノーベル賞

先日、2010年ノーベル賞受賞者が発表され、2つの異なるユニットを持つ化学物質を結合させるクロスカップリング技術で、鈴木章さんと根岸英一さんが化学賞を受賞したことは記憶に新しい。二人とも発見したカップリング技法を特許申請しなかったおかげで、多くの分野で広く用いられ多大な功績をもたらした。化学という



と自分には無関係だと思ってしまう方もいるだろうが、身近なDSやPS<sub>3</sub>、液晶テレビなどで技術の恩恵を受けている。鈴木さんが特許を取ることがめ

ついでと思われる時代だったから取らなかったただけだ」と気さくに応答しているところに人柄がにじみ出ている。また、「研究は1番でないといけない。2位ではどうか」などというのは愚問である。という科学技術の発展への真摯な態度には、ニュースを見て非常に感銘を受けた。その2010年ノーベル賞だが、平和賞を劉曉波さんが受賞した。中国籍で初めてのノーベル賞受賞者である。私も発表当時は携帯電話のニュース速報で知った程度だった。彼がどんな人なのかもまったく知らなかった。中国人の友人達に何気なくその話題を出したところ、「ノーベル賞って何?」という返答をもらった。1人だけ知っていたが、中国ではあまり知られていない

賞のようだ。

それにしても、劉さんが刑務所の中にいることが報道されて、私はかなり驚いた。これについてのコメントは控えるが、海を隔ててすぐ隣の国なのに、国情の違いは大きいと痛感した。アメリカのケンブリッジ州では、毎年必ずノーベル賞受賞者が出るため、オリンピックの金メダルの方が希少価値があるそうだ。1990年代までは10年に1人ほどのペースでしか受賞してこなかった日本人は、ここ10年で10人も受賞している。ノーベル賞は欧米人が有利だとされてきたが、少しずつその欠点を解消できるように動いている。国際化の時代とともにノーベル賞自体も変わっているのだ。

ノーベル賞の歴史を調べると、時代とともに変化して、そして時代を国を変化させていることがよく分かる。また、ノーベル賞受賞者がその国でどう扱われているのかは、その国の変化をリアルに知ることができる1つの指標になる。たとえば、ノーベル平和賞を5回も逃したと言われているインドのガンジーは、インドではどのような扱いなのか。調べてみると本当に面白い。せっかくネットや書籍を自由に閲覧できる国・時代に生まれたのだから、その恩恵を十分に活用してほしい。

(座安)

### ▲継続希望の方へ▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。